

■【トピックス】

戦争の懸念



経済が本当に落ち込むと、世界中でできなくさい話が出てきます。

特に、パレスチナ問題は、中東を世界の火薬庫としていますが、解決する気配すら感じられず、悪化の一途をたどるばかりです。いつも市民が犠牲になります。

第2次世界大戦後の朝鮮戦争で、日本経済は立ち直りましたが、今の世の中、戦争景気に沸くことはありません。平和こそが経済に必要なインフラになっています。経済は平和の配当です。

■【今月のキーワード】

国際会計基準

今、世界の会計基準は統一されようとしています。世界の多くの国は国際会計基準の受入を表明しています。

その国独自の会計基準を維持し続けるのは、実は主要国では日本と米国だけです。しかし、その米国も国際会計基準の適用を受け入れる方向です。

このままだと日本だけが独自の基準ということで孤立する懸念があります。現在は、国際会計基準へ近づけるための調整を行っていますが、近い将来には、適用を認めることになりそうです。

■【ビジネス・アイ】
会計基準（その1）

花野 「社長、今度、決算書（財務諸表）が大きく変わりそうです」

社長 「この前、会社法が施行されて株主資本等変動計算書とかいう計算書が増えたよね。今度もなにか計算書が増えるの」

花野 「今回、といっても数年先の話ですが、国際的にこれまでの貸借対照表とか損益計算書を大幅に見直して変えてしまいます」

社長 「一体どうゆうことなの」

花野 「貸借対照表を例にすると、これまでの借方、貸方という対照表示はやめて、プラスとマイナスで表示する財政状態計算書になります」

社長 「貸借対照表がなくなるの？」

花野 「貸借対照表は、今お話したように財政状態計算書に、損益計算書は包括利益計算書になります。貸借対照表に限って言えば、こまでのイメージとはかなり違ったものになります」

社長 「どうしてそうなるの」

花野 「一言でいえば、投資家により有用な情報を提供するためですね。それに国際的な会計基準の統一があります」

社長 「変更すると会社に何かメリットがあるの」

花野 「会社には、直接にメリットはありませんが、経営の実態が外からより分かりやすくなります」

社長 「聞いているだけだとイメージがつかめなから、うちの決算書で試しに作ってみてよ」

花野 「こちらに用意してきましたのでご覧下さい」

■【今月の1冊】

『奇跡のリンゴ』

石川拓治 著

幻冬舎

¥1300

あなたは奇跡を信じますか？不可能といわれたことを実現した人がいます。無農薬・無肥料では決して栽培できないといわれるリンゴですが、これを成し遂げた人の物語です。

最後の瞬間まで信じ続けた人が奇跡を起こしました！それまでの苦労は並大抵ではありません。村八分、極貧の生活、それでも信じた！できると！



■【編集後記】

【今月の1冊】で紹介した本の主人公木村秋則さんが作るリンゴを一度食べてみたですね。

奇跡のリンゴ、甘くておいしくて、その上腐らない。食べたら僕でも奇跡を起こせそうです。意外と奇跡は近くにあるかもしれませんね。

『NEWS LETTER』 vol. 23（毎月1日発行）

●定価：2,400円/年 ●発行日：2009.2.1 ●発行人：花野康成

●編集・発行：有限会社ビジネス・インスパイア

〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目1番30号錦マルエムビル5F

TEL.052-205-6361 FAX.052-204-8808

<http://homepage3.nifty.com/binspire/>